

# みんな伸びる



## もうすぐ夏休み！ お子様の様子はいかがでしょうか？

激しい暑さが続く毎日。いよいよ18日（金）に終業式を迎え、長い夏休みに入ります。1学期の子供たちの様子はいかがだったでしょうか？

7月22日（月）～28日（月）は、個人面談が予定されています。新しい学年になってからの御家庭でのお子様の様子に変化や気になることなどありませんか？

せっかくの機会なので学級担任に相談されてください。

子供は家庭と学校では、違う姿が見られることがよくあります。家庭の中では、はきはきして行動的なのに、学校では固まってしまう、なかなか実力が発揮できないお子さん、逆に学校では困った行動を起こしてしまい注意されることが多いけれど、家庭ではとてもおとなしいお子さんなど様々です。

個人面談をきっかけに、学校生活でのお子さんの様子と家庭でのお子さんの様子を話し合うことで、教員と保護者がお互いに子供を多面的に見ることがとても大切です。

情報を共有し、子供の育ちをサポートしていきましょう。

## 困り感って なあに？

「困り感はありませんか？」「ありません。」

よく検診や面談で交わされる質問と返答です。答える側からすると「困り感？私も子供も困っている感じはないんだよなあ。」ということですよ。

では、ちょっと質問の意図を掘り下げて考えてみましょう。まずは保護者側から・・・。

【困り感はありません。だけど、なんか育てにくいよなあ。実際の生活でなんか行動がちぐはぐなんだな。なんでこんなことするんだろ？ってことがあるよね。ほかの兄弟はそんなことしないのに。でも兄弟もちゃんと育てているし、まあ心配ないかな。】

次に子供さん側へ・・・。

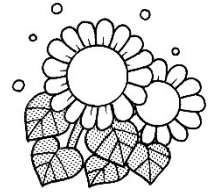
【いつもの生活の中で、わかっていても「どうしてもうまくいかない。」「どうしてもできない。」といった感覚があるんだよ。「どうしよう。」と思ってあせるけど、どうしたらいいかわからないから、とっても苦しいんだよ。】

しかし、幼い子供ほど、こんな気持ちを上手に表現できません。いつも注意をされるけど、なんで注意されているのか分からない→また同じことをする→また注意されるという負のループが続きます。

保護者に困り感はなくとも、子供の心の中で困った状態が続いているのであれば なんらかの療育の検討が必要です。



## 年齢による困り感の変化



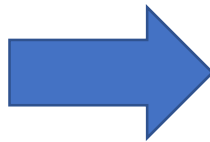
子供の成長に伴い、困り感も変化します。

幼児期（3歳～6歳）：言葉の理解や表現の難しさ、集団行動の難しさ、切り替えの難しさ  
小学生の時期：勉強についていけない、友達関係の難しさ 指示の理解や記憶の難しさ  
中高生の時期：自分らしさや将来への不安 複雑な人間関係が分からない  
大人になる時期：仕事や自立の難しさ

小さい頃は、「わからない」「できない」という素直な困り感が、年齢が上がるにつれて「どうせ自分なんて」という自己否定に変わっていくことがあります。

また長い間困り感が理解されないと、次のような二次的な問題につながる可能性があります。

学校にいきたくなくなる  
気分が落ち込む  
必要以上に心配してしまう  
自分を否定的に捉える



### 早期療育の必要性

- (1) 二次障害の予防
- (2) 社会適応力の向上

これらは、困り感が長い間理解されず、適切な支援がなかったために起こるものです。

困り感は、年齢が上がるにつれて、表面に出にくくなります。特に思春期以降は、困り感を隠そうとする傾向が強まります。だからこそ、小さな変化に気づく親や先生の目が大切です。

子供の困り感に早めに気づき、対応することが大切です。

## 子供にとって最も大事なことは…。

子供の持っている特性に合わせてよりよい生活ができるようにするための支援・補助を行うことが大切です。その際、長い目で見ることが大切です。

子供に「自分はこういう特性をもった大切な存在だ。」という自己肯定感が育まれると、自信が生まれ、これからの困難を乗り越える力が大きく育ちます。

家庭や学校で、環境の調整をしたり、考え方や対処法を学んだりすることもできます。

また時に、専門家の力を借りることも大切です。現在専門的な支援を受けるための機関は、地域にもどんどん増えてきています。

具体的な支援機関が知りたい方は、どうぞお気軽に面談時に担任を通して、特別支援コーディネーターにお知らせください。

また、通級や特別支援級を検討されている場合も、担任の先生や特別支援コーディネーターにお知らせください。来年度特別支援級に変更する場合は、今年度9月中頃が×切となっております。

個人面談等を活かし、子供の育ちをサポートしていきましょう。

